
御中

即効性ある対外経費削減

～経済危機を乗り越えるための企業体質改善～

深刻な経済環境における短期コスト改善の切札

エイジーコーポレーション株式会社

The best logistics environment is Supplied.

AZ Corporation

即効性があり持続性のあるコスト削減

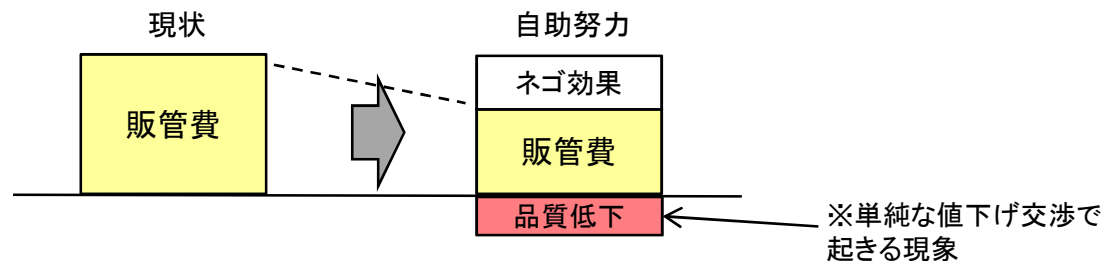
急激な景気の悪化を受けて、企業業績は早期の回復の見込みが立たない状況にあります。世界的な信用収縮によって資金調達難が日常化しており、企業経営が困難な局面を迎えています。

製造業では、在庫調整を終え、人件費削減を進めている状況の中で、各企業では、企業活動の継続と中長期的な成長に向けた投資を実施する為に、企業向けに、大胆かつ即効性があり、持続性のあるコスト削減および外部へ資金流出の抑制による財務状況の改善が急務となっています。

ネゴ交渉や現場の自助努力には限界有り

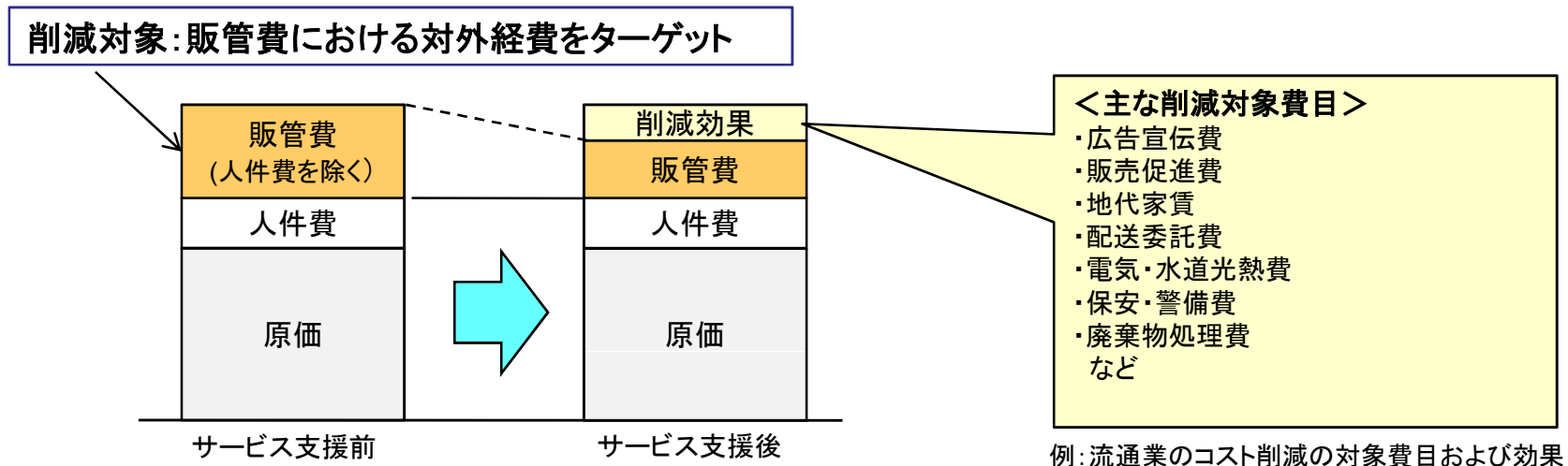
貴社におかれましても、財務状況を打破するため、業種や規模の大小を問わず、企業業績の急速な悪化への緊急的対処として、節電・節水・交際費の削減、消耗品節約など既に実行されているはずです。また、委託業者に対する単純な値下げ交渉などの容易にできるコスト削減も既に実施されているはずです。しかしながら、これら現場の自助努力を主体とした対応策だけでは期待する効果を生めず、満足の行くコスト削減が達成されているでしょうか。コスト削減策が十分効果を上げているのであれば、以下は釈迦に説法で恐縮です。

- ◆企画部門の主導でコスト削減に取り組んだものの、現場との温度差が遂行の妨げとなったり、通常業務との兼業によって現場の疲弊を招いている。
- ◆コスト削減に取り組んでいるが、場当たりのモノが中心で、一時的なコスト削減をしても、その他の問題が発生して、コストアップが発生してしまう。
- ◆一時的な改善を行いコスト削減をしても、コスト体質の強化が図れていないために、直ぐに別の問題が出てしまいコスト削減は薄れてしまう。
- ◆委託業者に対する価格交渉の論拠が弱いため、品質を落とさない効果的な交渉ができず大きな削減に結びつかない。



深刻な経済環境下における切札

弊社では、昨年からの深刻な経済環境における企業支援プログラムとして、即効性のある対外経費削減支援サービスを開発し、企業のコスト体質強化を目的としたコスト削減の実現を確実に支援致します。



本サービスは、間接費の対外経費に着目し、それらのコスト構造および契約条件等を深く分析する事により、現在の不況下における以下の3つの企業ニーズに合致するコスト削減を実現します。

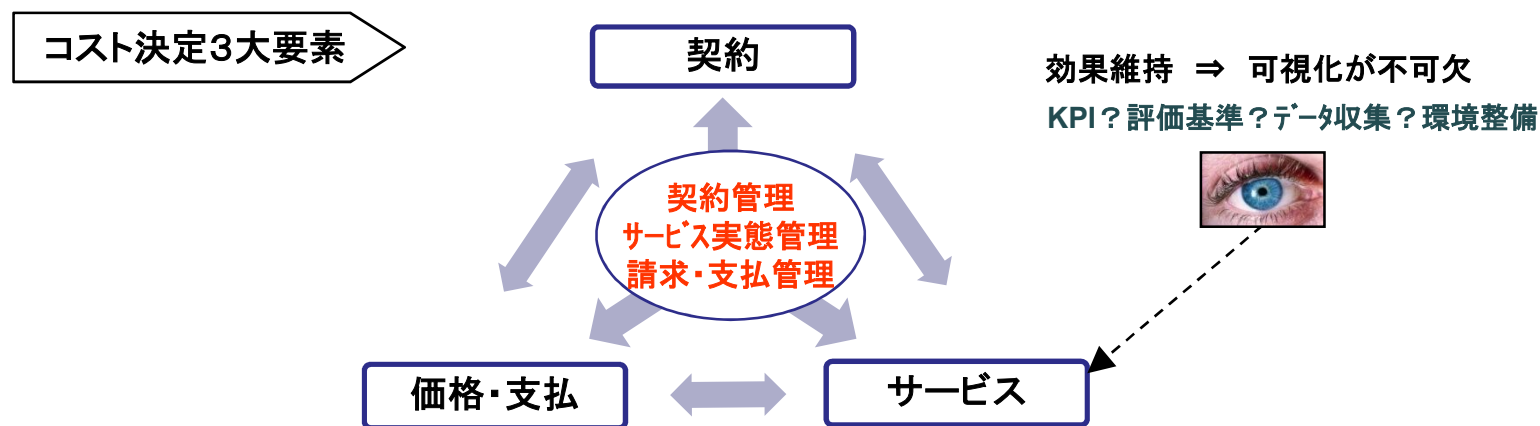
- ①即効性 : 3カ月程度の短期間で、実効性のあるコスト削減策を立案。
- ②削減効果 : 早期に財務的な削減効果が見込める対外経費項目に集中して徹底的なコスト削減を追究する事で、約20%※の削減を導く施策を提案。
- ③品質の維持 : 外部の委託業者に求めるサービス品質を確保しつつ、持続性のある管理手法の提供 (KPIによる品質・生産性の可視化) と、コスト削減を実現。

本サービスの対価は、サービス実施後のコスト削減金額の中で、吸収可能であり、現状のトータルコストに対して、増加する事はありません。※削減効果の値は弊社経験に基づく概算値です。個別企業の削減目標は現状診断を通じて算定

短期間で確実なコスト削減のための要素

弊社が提供するコスト削減支援サービスと、自助努力による対応策では何が異なるのでしょうか？以下の要素(契約・サービス・価格)について確実な現状を把握する事、その中でひずみが発生して問題が無いかを第三者の目で見えて棚卸しを実施します。棚卸結果を一般的な基準に照らして評価します。弊社の経験や実績データを駆使する事によって、貴社と、サービス提供者の双方が納得できる契約やサービスや対価の見直しを、交渉を通じて適正化します。つまり新たなWIN WINの関係を構築して貴社のコスト抑制を実現します。

弊社支援サービスの基本方針は、約3ヶ月間という短期間で、確実且つリスクを抑えたコスト削減を実現することを目的として、委託業者を変えずにコスト抑制を実施する事で、提供されるサービス品質の低下を発生させないアプローチを採用しています。弊社コスト削減支援サービスは、コスト決定の3大要素にフォーカスし、客観的にかつ多角的な視点からコスト削減機会を見出すことで、企業のコスト体質を抜本的に転換すると共に、短期間でコスト抑制を継続的に実践するしくみ(管理体制)を創りだします。実践事例のある支援サービスです。



主な着眼点

- 市場・相場の変化に応じた、条件・価格の妥当性
- 委託業者との馴れ合い構造により生じる不合理の有無
- 提供サービスおよび請求内容における不透明な部分
- 契約内容とサービス提供実態のギャップ